

表現遊び（劇ごっこや楽器遊びなど）を楽しむ季節がやってきました。第一幼稚園では、それぞれの学年の発達に応じた表現活動に取り組んでいます。どの学年でも大切にしているのが、自分なりのイメージをもって役になって楽しむこと。楽しくないと夢中になれません。



## おうちの人に表現遊びを見てもらいました！



5歳児 創作劇  
効果音は俺に任せろ！

3学年とも、子どもたちの実態や発想を大切にした劇遊びを楽しんでいます。自分なりにイメージをもって、その役になってみようとしたり、役になりきって歩き方まで表現しようとしたり、見ている側を意識してどうしたらいいのか仲間と相談して進めたり、学年に応じた姿に向かえるように、先生たちは試行錯誤しながら、環境や投げ掛けに工夫を凝らしていました。

晩秋から初冬のこの時期に、クラスの仲間と同じ活動を楽しみ、学年に応じて遊びを作り上げた経験が、子どもたちの成長をさらに後押しして、学年最後の姿に近づけてくれます。



5歳児 創作劇 「クリスマスプレゼントどこ行った？」



5歳児 創作劇 お化けに驚く場面



どちらのお話も、子どもたちが考えた完全オリジナル話です。



5歳児 ペープサート劇 「わんぱくだんのぼうけん」



4歳児 劇遊び 「すてきなぼうしやさん」







最後のポーズ  
自分で考えたポーズを決めました！



3歳児 劇ごっこ 「どんぐりころころ劇場」



森の動物がお池にはまったどんぐりをいろいろな方法で助けます。



### うらやまからのつづやき（園長のつれづれなるままに No.8）

子どもの自主性・主体性を引き出し、育てる「魔法の言葉」

保護者の皆様には、先月末の運動会に始まり、うらやま広場～第一幼稚園なかよしバザー～、焼き芋会、参加日（表現遊び）とここ1か月程の間に集まる機会が多くなりましたが、ご都合を付けて参加くださり感謝しております。

私は、参加日の前座の挨拶で、「幼稚園の時期に育てたい自主性や主体性は、劇遊びなどの表現遊びを通して育まれる」と申しました。今回は、この自主性・主体性にまつわることです。

先日、出勤中の車の中でラジオ番組を聞き流していたのですが、子育ての話で、「なるほど、分かりやすい」と私の腑に落ちた話がありましたので、お伝えしたくなりました。それがタイトルです。以下、概略を記します。

私たち大人は、子どもにも人格があり、子どもの思いがあり、発している言葉や行動が、すべて子どもの我がままであるとは思っていないのに、私たち大人の都合に合わなかったり、仕事が中断されるのを無意識に嫌って、こちら大人側の都合で、否定したり、叱責したり、受け流したりしがちです。この繰り返しでは、子どもはより良い方向に育ちません。

子どもが、泣いていたり、駄々をこねたり、言うことを聞かなかったり、困った顔をしていたりした時、私たち大人が、次の三つの言葉を意識して使うことで、変わります。

「どうしたの？」まず、何が原因で困っているのか本人の思いを、探ります。

「どうしたらいい？or どうしたい？」その思いを取り除くために、自分ではどうしたいのかを、明らかにさせます。以上の、二つは、子どもの思いに寄り添うために、必要な言葉です。自分の思いに寄り添う大人が居ると分かった子どもは、心を開きます。

「手伝えることはある？」子どもの思いが分かり、どうしたいのか願いが分かったならば、大人がそれをやってあげることは、たやすいかもしれません。そうではなく、あくまでも主体は子どもであるので、手伝うという立場で、子どもの自主性・主体性を尊重するのです。

**子どもの自主性・主体性を引き出し、育てるためには、この三つの「魔法の言葉」を意識する**  
**といいとのこと。もう遅いよということはないと思います。いつから？ 今……ですね。**  
**来年は、寅年ですね。“うらやま縁”の皆様、よいお年をお迎えください。**

\* 保護者の同意のもと写真を掲載しています。カラー版は、園のホームページをご覧ください。（只今更新準備中）